

第1章 「三茶のミライ」策定の趣旨

策定の背景と目的

「三軒茶屋駅周辺まちづくり基本方針」に掲げるまちのビジョン「進化し続ける交流のまち『三茶Crossing』」の実現に向けて、区民・事業者・町会・商店街・大学・区など、三軒茶屋駅周辺に関わりを持つ多様な主体である「みんな」が、まちづくりの担い手として、これまでのまちづくりの取組みを踏まえつつ、できることから始めて、相互に連携していく必要があります。

「三茶のミライ」は、みんなで「まちの未来像」を描き、「まちの未来像実現のための取組み」を共有し、相互連携によるソフトとハードが一体のまちづくりの進め方を明らかにすることを目的に策定しました。

策定にあたって

「三茶のミライ」の策定にあたっては、学識経験者や地元有識者などで構成する「三軒茶屋駅周辺まちづくり検討委員会」を設置し、専門的かつ幅広く検討及び調査を行うとともに、多様な主体が参加する「三軒茶屋駅周辺まちづくり会議」の開催を重ねてきました。

また、まちづくりを推進していくための「三軒茶屋駅周辺まちづくりシンポジウム」を開催し、検討していくための様々な意見をいただくとともに、まちづくりにおける気運を醸成しました。

「三茶のミライ」は、まちの主役であるみんなとともに、まちづくりを進めながら、社会情勢の変化を捉え、まちの未来像実現のための取組みなどを柔軟に追加し、常に進化し続けていくことが重要であると考えています。

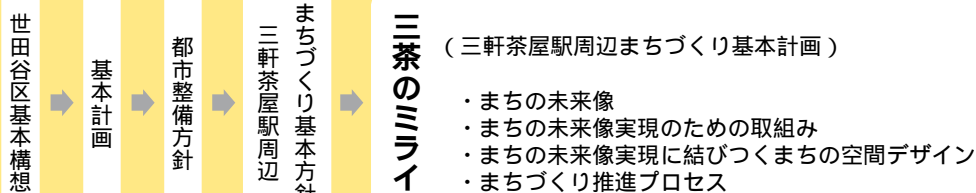
「三茶のミライ」の位置付け

「三茶のミライ」は、様々な分野が横断的に包括され、多様な主体が連携したまちづくりの取組みを行うための「みんなの計画」であるということを基本理念とし、「まちの未来像」、「まちの未来像実現のための取組み」、「まちの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン」、「まちづくり推進プロセス」を示すものです。

今後、「三茶のミライ」を基に、ソフトとハードが一体となったまちづくりの具体化につながる社会実験の実施とともに、まちづくり会議などにおける情報共有や検討を積み重ね、まちづくりの気運と熟度を高め、推進体制を構築します。

さらに、こうしたまちづくりの活動のフィードバックから、まちの空間利活用などソフト面の取組みと、基盤施設整備などハード面の取組みにつなげ具体化し、その取組みを計画的に進めることにより、「三茶のミライ」を実現していきます。

上位計画との関係



第2章 「三茶のミライ」で描くまちの未来像

「まちの未来像」の描き方

まちづくり会議とまちづくりシンポジウムの参加者からの意見を整理・分類し、まちづくり検討委員会などの検討を経て、「まちの未来像」を描き、「まちの未来像実現のための取組み」導き出しました。



みんなの言葉から導き出したまちづくりのテーマ

三軒茶屋駅周辺のまちを表現したみんなの言葉を基に、まちづくりのテーマを9つ導き出しました。



第3章 9つの未来像実現に向けて

9つの未来像と未来像実現のための取り組み体系

まちづくりのテーマ		9つの未来像		9つの未来像を実現したまちのイメージ	9つの未来像実現のための取り組み
文化	▶	1	歴史を継承しアートを生み出すまち	次世代に誇れるまちの歴史や文化が継承され、その魅力が世界中に発信されている。文化施設を社会基盤として支えていくことで、作り手が集う場所が用意されて新たなアートや文化が育まれ、まち全体がアートや文化であふれている。	・芸術創造への幅広く多様な参加の推進とそれに対する制度的支援 ・物理的な空間と情報空間を繋いでアートや文化活動への参加を「見える化」し、文化施設を積極的に利活用できる仕組み構築 など
商業	▶	2	個性豊かな店が通りを彩るまち	個性豊かな店舗が通りを彩り、界わい性を育んでいる。様々な事業者や商店などが連携することによって新たな魅力を生み、まちの活気が継続している。	・魅力あるまち並み等を継承するためのまちづくりルール構築 ・地域活性化に向けた、多世代が楽しめるイベント実施 など
働き方	▶	3	暮らしの近くに「働く」があるまち	暮らしの近くで様々な働き方ができる環境があり、そうした場所に人が集まり、活気づいている。起業・創業への後押しが、人々を呼び込み、新たなチャンスが生まれている。	・多様な働き方促進に向けたICT環境整備 ・自由自在な仕事の仕方ができるオフィス整備および利用推進 など
くつろぎ	▶	4	くつろぎの空間が育まれるまち	まちなかに広がる公共的空間が居心地の良い場所を生み、人とまちを繋いでいる。駅周辺は清潔感にあふれ、まち並みとみどりが調和し、人々の愛着心を育んでいる。	・街区一体化などの面的整備に合わせ、まちづくり活動ができる広場空間整備 ・質、量ともに豊かな地域に求められる緑地空間整備 など
交通利便性	▶	5	誰でも気軽に出かけられるまち	地上や地下に広がる複層的なまちなかを行き来できるなど、誰もが行きたいところに安心して移動ができ、まち全体が繋がっている。公共交通や自転車、新たなモビリティなどの様々な移動サービスが連携し、利用や乗り換えが快適になっている。	・通行環境の向上を目指した歩きやすい歩行空間整備 ・南北方向の分断回避を目指した道路横断機能の整備 など
拠点性	▶	6	拠点性を生かして人々の活動を支えるまち	古くからの街道の分岐点であることや公共交通が充実している利便性を活かし、公共サービスを始めとした拠点ならではの機能が集約されることで拠点性が高まり、人々の活発な活動を支えている。	・市街地の再構築として高度利用などにより魅力ある拠点の創出と商業・業務・滞在施設など機能の集積 ・地下空間における魅力ある広場などの創出 など
防災	▶	7	災害に強く、安全・安心のあるまち	まちに関わる人々が連携できる、共助による防災、防犯及び緊急時に対する体制が整っている。建物の不燃化、耐震化、防災空間の充実などにより、防災性が向上している。	・建築物の建替えや面的整備などを契機とした延焼遮断帯及び耐震化推進 ・駅周辺の防災性向上のための帰宅困難者などの滞留空間整備 など
支え合い	▶	8	暮らしを通して様々な関係性が生まれるまち	多様な暮らしが重なり合う中で、助け・支え合い、相互理解を深めながら、お互いを尊重し合う関係性が生まれている。こうした包容力が地域内外でのさらなる交流を生み出している。	・パブリックスペースを活用した地域活動の推進 ・団体の分野や世代を超えた交流を促進させるイベント実施 など
地域参加	▶	9	誰もがまちづくりに関われるまち	まちに関わる人々が主体的にまちづくりに参加し、まちを育てていける仕組みがあり、始める、支える、賛同するなど、様々な形でまちづくりに関われる機会が提供されている。	・町会・NPO団体などと連携したまちづくり活動支援 ・多世代の人が主体的にまちづくりに参加するための啓発活動推進および議論の場創出 など

第3章 9つの未来像に向けて

9つの未来像実現に結び付くまちの空間デザイン

みんなで描いた9つの未来像を実現するための取組みには、すぐに始められるものがある一方、都市基盤に関する新しい空間を創出するものもあります、これらを推進していくためには、多様な主体同士が連携し、取組みを具体化していくことが必要です。そこで、今あるまちの空間の多様な利活用や新たな空間の創出及びその利活用、さらにまちづくりの仕組みやルールを構築を一体的に捉え、「まちの空間デザイン」としてまとめました。より多くのまちづくりの担い手が、次の行動を起こすきっかけとなるよう、「まちの空間デザインの大切なポイント」に整理し、利活用が期待できる場所や空間創出を目指す場所を図示しました。今後、まちの空間デザインに関する取組みについて、社会実験などを実施することで具体化し、一つひとつの取組みが繋がりを加速し、また、新たな取組みも加わり、みんなが連携した社会実装に繋がっていきます。

9つの未来像		まちの空間デザインに関する取組み
1	歴史を継承し アートを生み出すまち	- 芸術創造への幅広く多様な参加の推進とそれに対する制度的支援 - 物理的な空間と情報空間を繋いでアートや文化活動への参加を「見える化」し、文化施設を積極的に利活用できる仕組み構築
2	個性豊かな店が 通りを彩るまち	- 魅力あるまち並み等を継承するためのまちづくりルール構築 - 地域活性化に向けた、多世代が楽しめるイベント実施
3	暮らしの近くに 「働く」があるまち	自由自在な仕事の仕方ができるオフィス整備および利用推進
4	くつろぎの空間が 育まれるまち	- 街区一体化などの面的整備に合わせ、まちづくり活動ができる広場空間整備 質、量ともに豊かな地域に求められる緑地空間整備
5	誰でも気軽に 出かけられるまち	- 通行環境の向上を目指した歩きやすい歩行空間整備 - 南北方向の分断回避を目指した道路横断機能の整備
6	拠点性を生かして 人々の活動を支えるまち	- 市街地の再構築として高度利用などにより魅力ある拠点の創出と商業・業務・滞在施設など機能の集積 - 地下空間における魅力ある広場などの創出
7	災害に強く、 安全・安心のあるまち	- 建築物の建替えや面的整備などを契機とした延焼遮断帯及び耐震化推進 - 駅周辺の防災性向上のための帰宅困難者などの滞留空間整備
8	暮らしを通して様々な 関係性が生まれるまち	- パブリックスペースを活用した地域活動の推進 - 団体の分野や世代を超えた交流を促進させるイベント実施

まちの空間デザインイメージのポイントイメージ



まちの空間デザインの大切なポイント	
まちの個性・魅力の継承・強化、パブリックスペースの活用 (未来像1、2、6、8)	まちの歴史や文化や個性豊かな店舗などの界わい性など、まちの個性の継承や、地域内外のさらなる交流など新たな魅力を生み出すために、魅力あるまち並みを継承するまちづくりのルール構築やパブリックスペース等の活用を図っていきます。
拠点性を生かした都市機能集積、パブリックスペースの創出、防災性の向上 (未来像3、4、6、7)	拠点ならではの機能を集約や防災性の向上を一体的に進め、人々の活発な活動を支えていくために、市街地の再構築による拠点の創出や、暮らしの近くで様々な働き方ができる環境などの機能集積と合わせて、広場空間整備や延焼遮断帯の形成及び耐震化などを図っていきます。
歩行者空間の充実、スムーズな移動や乗換えなど回遊空間の充実 (未来像4、5)	まち並みとみどりが調和した居心地の良い場所を生み出すとともに、公共交通の利用や乗換えが快適となるよう、質、量ともに豊かな地域に求められる緑地空間や歩きやすい歩行空間などを整備し、まちの回遊空間を充実させていきます。
南北移動の円滑化、地下空間の活用・創出 (未来像5、6)	地上や地下に広がる複層的なまちなかを行き来できるなど、まち全体を繋げ、誰もが行きたいところに安心して移動できるように、南北分断解消のための道路横断機能や地下空間における魅力ある広場などの整備の誘導を図っていきます。



凡 例		
まちの個性・魅力の継承・強化、パブリックスペースの活用 (未来像1、2、6、8)	南北移動の円滑化 (未来像5、6)	回遊・交流に資する地域資源
拠点性を生かした都市機能集積、パブリックスペースの創出、防災性の向上 (未来像3、4、6、7)	地下空間の活用・創出 (未来像5、6)	回遊路
回遊空間の充実 (未来像4、5)	交流の軸	公園、緑道、庁舎等の公共施設
		大学、寺院等の公共施設

第4章 今後の展望

まちの未来像実現に向けたまちづくり

9つの未来像実現に向け、共に理解し合い、知恵を出し合い、協力しながら様々な立場で役割を担って、協働することが重要になります。今後、「三茶のミライ」を基に、まちづくり推進のための仕組みづくりをはじめとしたまちづくり推進体制の構築や、社会実験を中心とした身近な活動を行いながら、参加と協働による持続可能なまちづくりを進めていきます。

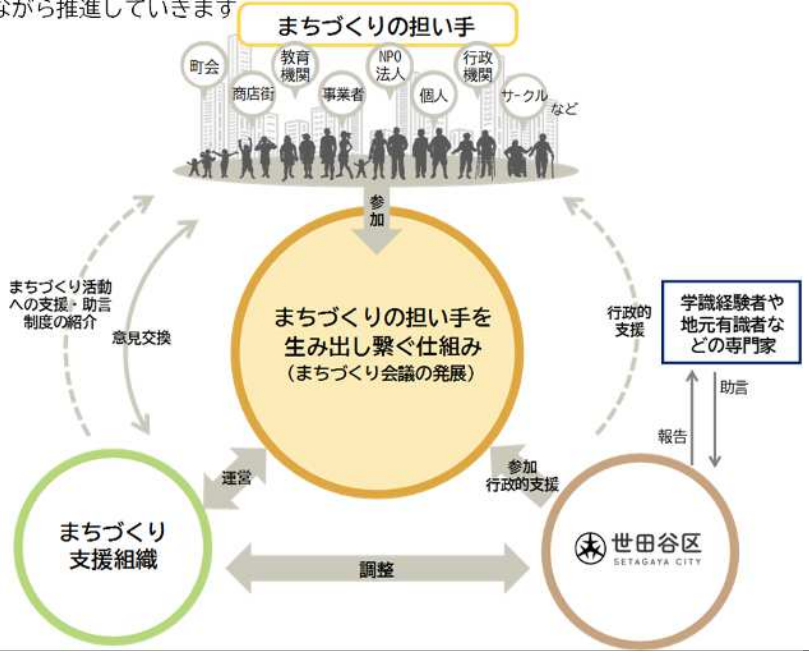


9つの未来像実現のためのまちづくりの推進体制

持続可能な協働のまちづくりを推進するためには、まちづくりの担い手、まちづくり支援組織、世田谷区が、互に関係性を持ちつつも、それぞれの立場や強みを活かしながらまちづくりに参加できる体制が必要です。まちづくりの担い手に対し、必要に応じて助言や9つの未来像実現のための取組み推進の支援、さらに公的な制度の紹介、関係者との連携や調整などを行い、学識経験者や地元有識者などの専門家による助言も受けながら推進していきます。

三軒茶屋駅周辺では、様々なまちづくり活動があるからこそ、区内外に誇れる魅力が生まれています。

今後、まちづくりを進めていく上で、まちづくりの担い手が、活動を展開するため「三茶のミライ」を活用しながら、取組みを積み重ね、みんながまちづくりに関わることができる推進体制の構築をしていきます。



まちづくり推進プロセス

まちづくり推進体制構築を進める中で、それぞれが担うべき役割や関係性は変化していくことから、推進プロセスとして整理しました。

創設期では、まちづくり会議を継続し、社会実験を中心とした多様な主体と連携した身近な活動や、まちの空間デザインの検討、地域資源の利活用などの9つの未来像実現のための取組みを推進し、まちづくりの気運と熟度を高めていきます。

成長期では、社会実験やみんなと連携した活動のフィードバックから、取組み内容を具体化し、その取組みを計画的に進めることにより「三茶のミライ」を実現していきます。

